

9月定例教育委員会会議録

1、開会年月日 平成30年9月6日(木)

2、閉会年月日 平成30年9月6日(木)

3、出席委員氏名

前川 喜太郎 田中 久善 西畑 敦司

名倉 幸子

4、委員及び傍聴人を除くほか議場に出席した者の氏名

教 育 長 森 継 隆

事 務 局 長 仲 谷 俊 充

事 務 局 次 長 木 村 昌 訓

ま な び 推 進 課 長 高 山 仁

ま な び 推 進 課 付 課 長 山 村 結 紀 子

文 化 財 課 長 赤 埴 陽 一

教 育 総 合 セ ン タ ー 所 長 西 田 智 也

図 書 館 長 森 田 三 喜 子

市 民 協 働 推 進 課 長 石 原 康 司

教 育 総 務 課 庶 務 係 長 土 田 裕 彦

教 育 総 務 課 庶 務 係 主 事 奥 村 真 子

5、会議に付した議案の件名

日程第1 教育長報告

日程第2 議題 なし

日程第3 報告 児童生徒の健康管理について
学校訪問教育相談会等について

6、会議の経過

開会 午後 2時03分

閉会 午後 2時32分

1 教育長

皆さん、こんにちは。

ただいまから9月の定例教育委員会を開会いたします。

本日の署名委員は、西畑委員と名倉委員をお願いいたします。

まず日程第1、私からの報告です。

8月15日以降の報告になりますが、15日は長岳寺の「平和の鐘を鳴らそう」という行事に行かせていただきました。

あと20日は、近畿都市教育長協議会ということで、内容は次回10月に行われる近畿大会についての打ち合わせでした。

23日はエジプトの柔道ナショナルチームの方が表敬訪問されました。その際、66キロ級と100キロ超級の方と話す機会がありまして、1人の方は小学校からもちろん柔道はされているのですが、英語も小学校から習っていると話されていました。国で決まっているわけではなくて、彼がいた小学校がたまたま英語をやっていたということらしいです。あと、日本のアニメの評判がよくて、「このアニメがいい」というような話をさせていただきました。100キロ超級の方は体格も立派で、130キロとおっしゃっていたのですけれども、かなり筋肉質の方でした。ぜひ東京オリンピック・パラリンピックで頑張っていたきたいと思います。

あとは27日の成人式実行委員会に行きまして、今年度も多くの方が実行委員を引き受けていただいて、来る成人式に備えていただいていた。

31日の臨時奈良県都市教育長協議会は、高校適正化についての説明を受けてまいりました。皆さん御存じの内容の報告を受けたという

ことですので、特に目新しい報告はございませんでした。

何か御質問ございますか。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

次、日程第2、議題に移らせていただきます。議題は本日はございません。

日程第3、報告に移ります。児童生徒の健康管理についてということで、まなび推進課、報告をお願いいたします。

1 まなび推進課長

熱中症の状況についてまとめさせていただきました。届出で出ているのが5件で、夏休み前が4件、夏休み中が1件ということでしたので、それぞれの学校、十分に配慮していただいていると考えております。

また、9月3日から7日の対応ということで、前回報告させていただきましたように、非常に猛暑・酷暑が予想されるということから、3日から7日の対応で、空調設備の整っていない中学校及び福住小学校については、午前中は授業で給食後下校ということにさせていただいたわけですが、始まってすぐに台風で臨時休校ということがございまして、昨日と今日について午前中授業といたしました。空調設備が設置された小学校に確認させていただきましたところ、非常に冷房がよく効いて、とても快適であるということ聞いております。

以上でございます。

1 教育長

今の報告について、何か御質問ございますか。

田中委員。

1 田中委員

今、冷房の話が出たのですけれども、冷房は昨日も今日もかけているのですか。原則とかそういったことがあったのではないのでしょうか。

1 まなび推進課長

はい。つけております。

1 田中委員

原則、何度を超えるとつけるというルールはありませんでしたか。

1 まなび推進課長

2 8度以上ですね。

1 田中委員

2 8度はもう超えているということかな。

1 まなび推進課長

昨日、30度と高温になっていましたので。

1 田中委員

朝からでしたか。昨日は涼しく感じたのですが。

1 西畑委員

9時過ぎると結構暑いですよ。

1 田中委員

昨日つけているのかなと思っていましたが、どこの学校もつけているのですか。そういう調査はないのですか。

1 まなび推進課長

昨日は全部の学校でつけています。

1 田中委員

全部の学校で。快適に利用してもらっているのであれば良いのです

が、そういう原則とか配慮とかどうなっているのかと思ったのでお聞きしただけです。

以上です。

1 教育長

使用規定というか、使い方については校長会で対象校長に周知しています。

1 田中委員

わかりました。

1 教育長

ほか、何か質問ございますか。よろしいですか。

(「はい」の声あり)

続きまして、学校訪問の教育相談会についてということで、教育総合センターの西田所長、よろしく申し上げます。

1 教育総合センター所長

お手元に9月定例教育委員会報告資料、教育総合センターというプリント2枚を綴じていますので、それをご覧ください。学校訪問教育相談会ということで、不登校対策として、夏季休業中の総合センターの取組について報告させていただきます。

総合教育会議の時にも申しましたが、当センターでは、まなび推進課と協力し、教員や学校に向けて不登校を防ぐための取組として、天理市不登校等支援委員会を実施しています。年4回の委員会を行い、委員の先生方には不登校の早期発見と早期対応のための取組や中学校区別の取組について交流をしていただき、具体的な取組について論議を進めていただいています。

資料1の不登校等支援委員会の取り組みの流れをご覧いただきたいと思いますが、7月中に学校から調査票があがってまいります。この調査票については、後ほどまた説明をさせていただきます。

それに基づきまして、8月いっぱいかけまして、学校訪問相談会を実施いたします。

4月から6月の3カ月で8日以上休んだ者を主な対象者として、不登校傾向児童・生徒調査を実施いたします。この調査では、年度末に不登校となる児童・生徒の約70%を発見することができています。これまでの実績でそういう結果が出ています。また、早期対応を実現するために、夏休み中に希望する教員に対して、センターの臨床心理士とまなび推進課の指導主事を派遣する学校訪問教育相談会を実施して、各校の教員に不登校の状態の見立てと、2学期からの支援プランニングを行っています。2のところの不登校傾向児童・生徒に関する取組の報告ということで、4月から6月で、病欠を除き8日以上欠席した児童・生徒、また8日未満でもその傾向にあると判断される児童・生徒で、それぞれの学校からいただいた調査票の人数と、それから学校訪問教育相談会を実施した件数をまとめています。小学校では合計50、中学校では83、あわせて133の調査票があがっています。そのうちで夏休み中にケース会議を全部で38実施いたしました。

また今後、それぞれの内容について困難事例について希望がありましたら、専門の大学教授やセンターの臨床心理士を派遣するミーティング、校内事例検討会を実施していきます。また、学校訪問相談会を受けた者のケースにつきましては、2学期以降、その相談会のフォローアップを実施していくことになっています。

それから、夏休み中に不登校に特化した研修会、スキルアップ研修会を2回実施いたしました。支援委員の先生方と、それから希望参加される先生方に今年度夏休み中に行った2回の研修会ですが、1つ目は天理大学の千原教授から、「不登校の理解と早期発見・早期対応について」講演いただきました。2回目につきましては京都教育大学の内田教授から、「学校で生かせる事例検討—PCAGIP法を用いて」ということで講演をいただきました。これは2枚目のプリントの最後、4の不登校支援についての教職員研修の中に載せています。それから南中学校の職員研修に、当センターの臨床心理士の中尾と一緒に参加をさせていただき、「不登校の理解と支援」ということで南中の職員研修に参加をして不登校の子ども理解についての研修を行いました。

それから参考までにということで、順番が逆になりましたが、3番目に不登校傾向児童・生徒連携シートということで、昨年も小学校6年生のときに、30日以上欠席した児童の中で、連携シートが活用されたものとして、中学校1年生に送られたものの数を表にして載せています。福住中学校はございませんでしたので、北中、南中、西中でそれぞれあがってきたものとして、6年生から中学校1年生に26ケースの調査票をあげていただきました。北中学校区におきましては、3校ありますがa小学校からということで、7名が挙がっています。8番から18番の南中学校区につきましては、b小学校とc小学校の2校から挙がっています。11名中6名が、小学校のときに比べて登校できているという状況があります。それから西中学校につきましては、d小学校から19番から26番の生徒について挙げていただいています。8名中5名が登校できている状況です。26名挙げたうち

1 2 名が登校しているということで、大体半数が頑張っで登校してくれていると思いますが、この表を分析しますと、4月からもう既に不登校傾向に陥っている生徒につきましては、なかなか5月、6月になっても厳しい状況があると思っています。他の生徒につきましては、5月、6月に欠席が増えた者は、そのまま不登校になっていく傾向があると思っています。連休明け、それから学校生活が軌道に乗り始めていく頃に行き渋り等が出てくるのではないかと考えています。4月は連携シート等を活用していただいて、このように対応していただいて、4月はうまくいったのではないかと考えていますが、その辺はもう少し丁寧に分析をしなければなりません、今7月現在でいただいている数字からそこに挙げさせていただきました。学校訪問は、それぞれ学校からこういった相談をしたいという申出があった中で相談をしていくということになっていますので、件数は、調査票に挙がっている全てにかかわるケース会議は行いませんけれども、今年度38のケース会議を行うということで、昨年度の20ケースに比べて大幅に増えているのではないかと考えています。

以上です。

1 教育長

ありがとうございました。何か質問はございますか。

名倉委員、お願いします。

1 名倉委員

今の3番の見方をもう一度お聞きするのですけれども、例えば北中校区では、a小学校しか載っていないということは、あとの2小学校は全く報告がないと、連携シートがないということですか。

1 教育総合センター所長

この2つにつきましては、30日以上欠席して、連携シートとして活用されたものがなかったということです。

1 名倉委員

なかったということですね。

1 教育総合センター所長

はい。そうです。

1 名倉委員

ということは、北中、南中、西中ともに小学校によって偏りがあるということですね。

1 教育総合センター所長

結果的にはそういうことですね。

1 名倉委員

ということは、連携シートがもちろんとても大事なものののですが、けれども、やはり小学校の在籍中にもっと深刻に考えなければなりませんね。学校によって偏りがあるということで、その中学校区の小学校がどういう分析をされているかわからないのですけれども、原因もあろうかと思しますので、そこのところ何かわかることがあれば教えていただきたいです。

1 教育総合センター所長

もう少ししっかり分析をしなければいけないと思いますが、この1学期の中での報告ということですので、ただ、昨年度も同じような結果なのかどうか。昨年度、例えば北中においてはa小学校ではなくて、違う2つの小学校から出ていたとか、そのあたりも見ていかなければ

ならないと思います。今年度、中学校にあげてもらった連携シートについてはこういう状況であるということで、その時の学年の特徴なり、あるいは先生方もその辺取り組んでいただいていると思いますけれども、結果的にここに出ているように北中では1校、南中からは2校、西中からは1校という形になっているということです。

1 名倉委員

わかりました。恐らく、学年によって、その年によって小学校が偏るという傾向にあるのかなと思います。

1 教育総合センター所長

同じ学校で同じような傾向が出ているのかというのはもう少し見ていかなければならないと思います。

1 名倉委員

そうですね。この連携シートを見る限りは、全体的な把握というものもやはり大事だと思いましたので、また十分に活用をされたらいいと思います。ありがとうございます。

1 教育長

前川委員。

1 前川委員

不登校ぎみの子に対する支援はまた引き続きお願いしたい部分なのですけれども、逆に西中の中で、VとかYという生徒は、皆出席と見ているのですよね。

1 教育総合センター所長

はい。欠席がない。

1 前川委員

欠席がないということは素晴らしいことだと思うのですが、逆にどうしてこの子達は皆出席になったのかという、その心というかその子の胸の内を聞きたいですね。よく頑張ってくれていると思いますけれども、何か頑張れたきっかけというものが、もしわかれば、また教えていただければと思いました。

1 教育総合センター所長

今、個人的にその子たちがどういう心情でいるのかというのは、私のほうで把握しきれいていませんので、また学校と連携を取り合っけて聞いてみたいと思います。

1 前川委員

お願いいたします。

1 教育長

西畑委員。

1 西畑委員

今、ご報告いただいた中で、この3の表の中で、北中のDさん、それから西中のWさんについては、「いちょうの木教室」に行っておられるとのことで、それがいい結果に結びついているというふうに見受けられます。「いちょうの木教室」というのは、そこに行っていると登校したことになるのですか。

1 教育総合センター所長

なります。

1 西畑委員

それを含めての教室ですか。

1 教育総合センター所長

そうです。

1 西畑委員

ということは、実際に中学校に行けている日というのは、もう少し少ないということですか。

1 教育総合センター所長

これは中学校1年生になった数ですので、小学校の時に「いちょうの木教室」に来ていましたけれども、今はもう中学校へ行っているということです。

1 西畑委員

今も「いちょうの木教室」に来ているのですか。

1 教育総合センター所長

来ていません。今「いちょうの木教室」のほうへ向かおうとしているのは、この中では北中のGという、この子だけが「いちょうの木教室」へ今相談をかけて、「いちょうの木教室」へ行こうかなということを保護者と一緒に考えているという状況です。

1 西畑委員

今、先ほども申し上げたように、ここお二方についてはすごくいい結果になっているということなので、このGさんもそれでいいほうに結びついてもらえたらなと思うのですが、他にもたくさん休んでいる生徒さんがいるので、その生徒の御家庭に対して、「いちょうの木教室」に来ていただくような取組として、何か変わった手だてとかというのはされていますか。

1 教育総合センター所長

いわゆるパンフレット等で学校でも御家庭に対して、不登校等につ

いての相談は教育総合センターで実施しているということについて配布させていただいたり、広報で周知させていただいたりしていますけれども、学校の先生とあるいは保護者の方と一緒に不登校を解消していくための相談をやってみましょうかと、前向きに動いていただければいいのですけれども、親子平行面接とってどちらも同時に面接をしていくというのが、まず受け入れの第一歩になりますので、そこをクリアしていくことの難しさがあると感じています。

1 西畑委員

以前からお話を伺っていて、「いちょうの木教室」というのは、すごく後々の生徒・児童のためになっていくというのはよくわかっているので、できるだけそういう活用が増えていくことを私は望んでいます。よろしくお願いします。

1 教育長

どうぞ、田中委員。

1 田中委員

確認とお願いなのですけれども、この連携シートを取り組まれているのは今年からですか。

1 教育総合センター所長

以前からありました。

1 田中委員

ありますか。今までの調査結果とか関わりというのは、どのようなものでしたか。南中が、研修を受けられている中でもこの連携シートはあったわけですね。そして、研修も教育総合センターでありましたね。

1 教育総合センター所長

研修も今までかなりありましたね。

1 田中委員

その経緯を教えてくださいませんか。

1 教育総合センター所長

不登校等の連携シートにつきましては、先ほど言いました支援委員会の中で各校から出ていただいている先生方の中で、小学校から中学校へ送っていくためにどういった情報提供をしていったらいいのかということ自分たちで考えて作っていただいたというものです。自分らの手づくりですので、こちらからこういうものを書いて送ってあげるといっておろしていくと、なかなか先生たちもそこは連絡会はやっているのだから、そこで伝えていたらそれでいいのではないかとということもきっとあるだろうということも含めてですけども、自主的にこの連携シートを委員さんたちで考えて作っていただいたということが経緯です。研修につきましては、これまでもかつて、センターの中に研修係というものがあつた時からいわゆる不登校の問題、それから特別支援教育にかかわること、それから今日的な課題も幾つか、それが先生方のスキルアップにつながる内容でということとということで組み立てていた中の1つとして、不登校にかかわっては、今年度は2つ実施をしたということですね。

1 田中委員

学校訪問相談会も、今まで実施されているということですね。そういう意味で今、こういうデータが出されているということで、いろいろ委員さんからも期待があつたと思うのですが、ぜひ、その間

題点を明らかにしながら、幼小中でそういった連携をしっかりと図っていかないと、この不登校問題というのは解決しないのではないかと思います。この辺、今後問題点を明らかにすることは可能でしょうか。

1 教育総合センター所長

今の支援委員会の中では、中学校区別に分かれていただいて、そこで交流をしていただく時間を必ず作っていただいています。例えば現在こういう子がいて、次中学校に上がっていくのでという情報提供をしたり、もちろん連携シートは渡しますが、その中での交流やあるいは送った子どもたちが中学校に行って、現在どういう状況にあるのかということ进行交流したりということがあります。しかし、その中に幼稚園や保育所は、今この支援委員会に入っていないですね。ですから今委員がおっしゃったように幼保との連携からということから言うと、そういった枠組みも含めて考えていく必要があるということは、今聞かせていただいて思いましたけれども、今のところは小学校と中学校の校区ごとの連携を重視していただきたいということです。

1 田中委員

そういう意味で、今後、今教育委員さんも期待されているようですし、私も期待をしたいと思うのですが、やはり楽しいと思わなければならぬわけですし、今までの経緯が、なぜ効果をなさなかったのかも含めて、もし提案なり、報告できることがあれば今後期待していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

1 教育長

連携シートは、今までもあったわけですか、これはもう大分前からあるのですか。

1 教育総合センター所長

大分前ではないです。

1 教育長

ここ二、三年ですか。

1 教育総合センター所長

そうですね。

1 教育長

二、三年ということで、やっと認知されて動き始めたということで、すぐには機能しなかったところもあったのでしょうね。小中の連携のほうもうまくできるようになってきて、それで26人中12人が登校できているということになっています。また、うまく進むようにということと、何かあればみんなで改善していかなければならないと思いますので、また年度末になったら課題と反省ということで点検していきたいと思いますので、また先生よろしくお願いします。

ほか、何かありますか。

1 教育総合センター所長

補足ですけれども、ケース会議の数が今のところ38ということですが、これらにつきましては希望する先生方、あるいはその事例についてのケース会議についての数ということです。本来はもっと増えてきたらいいわけですが、先生方が意欲を持って、自分の受け持ちをしている子ども、あるいはその学校の子どもたちについて、こちらから強制的にトップダウンでケース会議を持ってくれというのではなくて、学校現場からこういった子がいるがどうしたらいいかという議論につながるような相談会に今後もしていけたらと思っています。

す。学校の先生方も責任を感じていただいていますし、目の前の子どもを自分で何とかしたいという責任感、義務感が働いてしまいがちです。受け持っている子どもを何とかしたいという気持ちがまず先にあって、そのことで対応されることが多くあるわけですけれども、1年生のみならず、1学期の段階でこうして欠席が挙がってきた子どもたちについては、意欲的にそういったケース会議を開いていけたらと思っています。だから今年度研修したPCAGIP法というのは、より自分たちで、この事例検討をやっていくという内容です。準備をたくさんして、資料を出して、代表の先生が報告をして、それを参加している先生方は聞くだけで傍観者的な立場で終わってしまうというのではなくて、自分たちでいろいろ意見を出し合って、この子についての見立てというのも含めて、あるいはどういったことが問題になっているのかということや、どういった解決方法があるのかということ先生たちが、自分たちの手づくりでそのケース会議をしていける、事例も簡単に言ってやっていけるということで、これも今年度研修の中でまなび推進課の指導主事と教育総合センターの職員が書記を担って黒板に出て意見を書きながらやっているという内容でやりました。こういったことも含めて現場でのケース会議をもっと広げていけたらと思っています。

あと、補足ですけど、この資料につきましては、それぞれで管理をよろしくをお願いします。

1 教育長

ありがとうございました。補足もありましたが、よろしいでしょうか。

報告も終わりましたので、これもちまして本日の定例教育委員会
を閉会いたします。ありがとうございました。

閉会 午後 2時32分